MADE IN まちの主役 SHIMONOSEKI

下関障害者パソコンサポーター（SSPS）

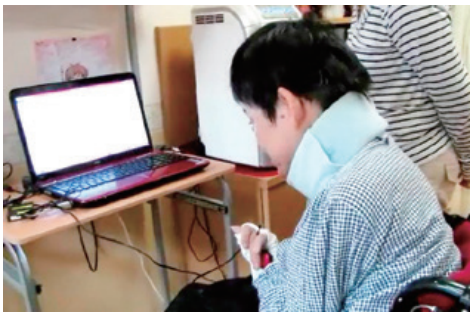
今回のまちの主役は、障害のある方がパソコンを利用するためのサポート活動を行い、会員の技術向上も図る下関障害者パソコンサポーターを紹介します。

教わることで教えることで共に上達

もっと上達したいその気持ちに応えるため

障害者パソコンサポーターは、平成17年から活動を始め、障害のある方がパソコンを利用するためのサポートを行っています。設立のきっかけは、「もっとレベルが高いことを教えてほしい」、「一人ひとりじっくりと教えてほしい」という障害のある方の声からでした。平成30年には、長年の活動が評価され、「県民活動きらめき賞」を受賞しました。

障害者パソコンサポーターの会員は27人。毎週火・金曜日に身体障害者福祉センターで、視覚や肢体などに障害のある方へのパソコン教室を行うほか、訪問によるパソコンサポートや交流会、サポーター養成講習を行っています。40人近くの障害のある方が、パソコン教室や訪問サポートを利用しています。



▲訪問でのパソコンサポートの様子。パソコン操作には、スイッチという特殊なツールを使います。

教え方に教科書はない

会の立ち上げメンバーの一人でもある相澤会長に話を伺いました。「パソコン教室では、メールなのか、エクセルなのか、何ができるようになりたいかを、まずよく聴くようにしています」。相手の障害の程度や特性に応じて、教え方が変わります。例えば、全盲の方に、エクセルの使い方を教えるときなど、相手に分かりやすく伝えることはとても難しいそうです。普段、自分が操作しているのとは、違う方法で教えることは決して簡単で

まちかどボイス

今月のテーマ
今年、チャレンジすること

編集後記

■まちの魅力再発掘プロジェクト。市民ライターさんたちに話を聞きましたが、皆さんの熱い気持ちに圧倒されました。このまちの未来は明るい！（わ）
■パソコンやスマホを全然使いこなせていないと感じる今日この頃。下関障害者パソコンサポーターの方がめちゃくちゃかっこよく見えました（き）
■獣医の山縣先生は89歳。恐らく日本最高齢の現役獣医さん！　下関の獣医さんの団結力など他市にない良さを伺いました！　いつの日か記事に！（ひ）

◀相澤昌幸会長。「パソコン未経験の方も、ぜひ一度パソコン教室に参加してみてください」

▶パソコン操作が上達し、できることが少しずつ増えていくと、自然と笑顔も増えていきます。

はありません。「10回同じことを聞かれても、怒らずに、じっくりと教えることが大事です」と笑顔で話します。

教わる側が教える側に

「年賀状が作れるようになったり、自分の好きな曲が聴けるようになったと聞いたときは自分のことのようにうれしいですね」と相澤会長。会設立後、初めてサポートを受けた全盲の方はパソコンの腕前が上達し、今では教える側として、パソコン教室に参加しています。教え子も全盲の方で、手紙が書けるようになり、お父さんに初めて手紙を送った時、涙を流して喜んだそうです。

「パソコンは情報収集や手続きなど障害のある方にとって、とても役に立つものです。しかし、どのような手段や方法で使えるかを知らないために、本来ならばパソコンが操作できるにもかかわらず、諦めてしまうケースも多くあると思います」

見ることに困難のある方の場合は画面の拡大や音声案内を利用し、マウスやキーボード操作が困難な方の場合は操作スイッチというツールを使って画面に出た文字盤をクリックすることで、パソコンを利用することができます。

「多くの方に、このパソコンサポーターの存在を知ってもらい、利用してもらいたいです」。パソコンがつなぐ人の輪は、広がっています。